

当面のドル/円テクニカル見通し

はじめに

2013年前半のドル/円相場を振り返ると、昨年後半からの流れを引き継いで上昇する展開となった。これにより月足上にて陽線が連続で8本も出現し、1971年以降の連続7本(1981年、1995年、2000年)を上回る新記録を達成した。昨年後半からのアベノミクスからくる円売りと、米景気回復期待からくるドル買いが合わさり、投資家の想像をはるかに超える上昇へとつながった。

まずは、現在の立ち位置を値幅・日柄両面から見てゆきたい。

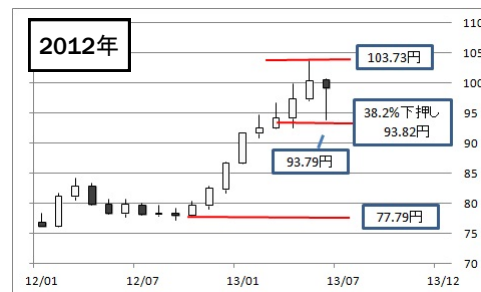
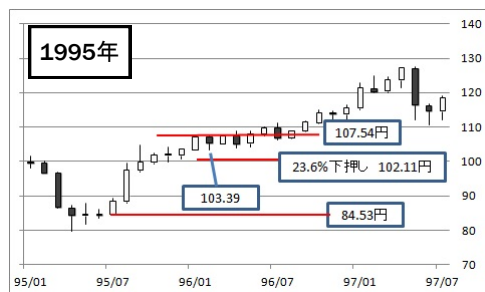
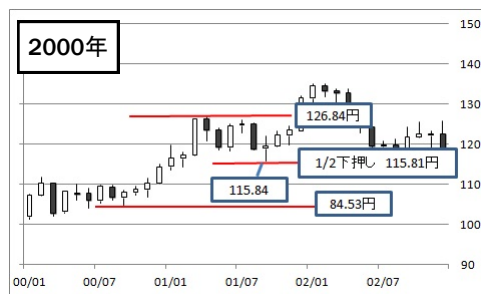
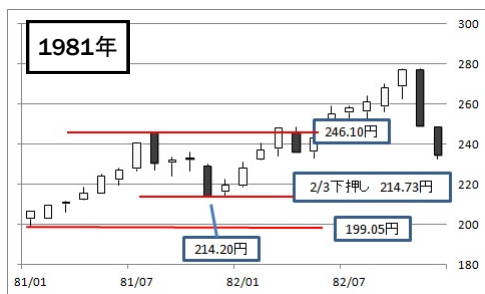
(1) 値幅面からの考察

今回の月足8連騰により、現在の上昇相場はこれで終わるのか、それともまだ継続しているのか、大いに気になるところである。

そこで過去に7連騰を達成した後の値動き(図1)を見ると、下押し幅にばらつきがあるものの、1/2や2/3といった、比較的良好に使われる下値目処の計算方法が機能している。しかも、いずれの局面においても、7連騰達成が上昇トレンドの終了にはつながらず、下げ一巡後は直近の高値を越えて一段と上昇している。このことから、今回の8連

図1:ドル/円 過去の7連騰局面と今回の8連騰局面の比較

※ブルームバークを基に外為どっとコム総研作成



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

騰も、トレンドの終了を意味する可能性は低そう
 だ。しかも、既に8連騰達成後に38.2%下押しとい
 う「きりのよい」目処を達成していることから、既に
 値幅面からの調整を終えている可能性がある。た
 だし、過去の下押しと比べるとやや物足りなさが
 感じられる点は否めず、今年6月安値(93.79円)を
 割る場合、昨年後半からの上昇幅(2012年9月安
 値77.12円～2013年5月高値103.73円)に対する
 1/2下押しである90.43円や、2/3下押しにあたる
 85.99円に向けてもう一段の調整が入る事も考え
 られる。

(2)日柄面の考察

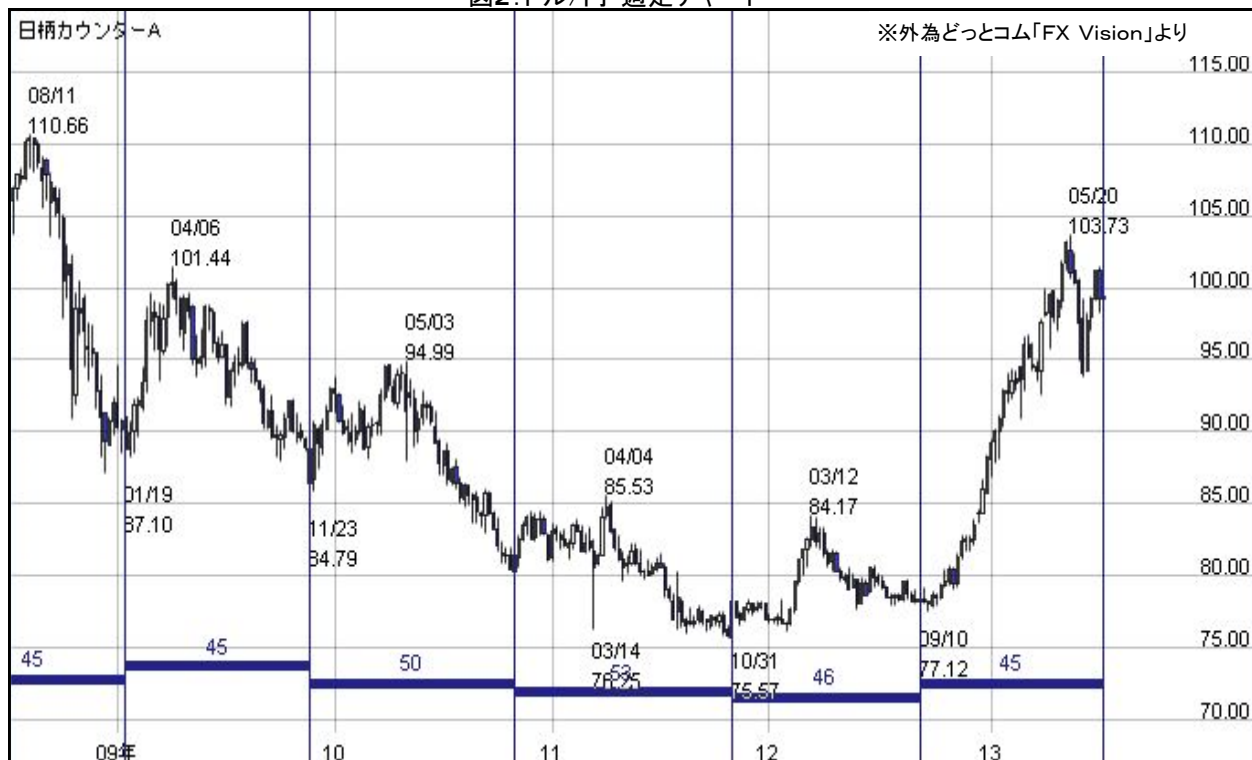
1971年以降の週足サイクルを見ると、最短が31
 週、最長が67週、それらを平均すると約46週で

あった。

(3)46週サイクルのボトム

現在は、昨年9月安値を起点とするサイクルのボ
 トムを確認する局面といえる。仮に今回も46週で
 サイクルボトムが到来したとすると、7月21日の
 週が当てはまる。一般的なサイクル期間の許容
 範囲(±1/6)を考えると、足下の46週サイクルの
 ボトムは9月16日の週(46週+1/6で53.7週≒54
 週)までに付ける可能性が高い。そして、1971年
 以降で最長のサイクル(67週)を当てはめると、
 今年12月16日の週が導き出される事から、それ
 までに6月安値(93.79円)を割らないようならば、
 ここをボトムに相場は次のサイクルに入っていると
 考えられる。

図2:ドル/円 週足チャート



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針
 や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された 意見や予測等は、今後予告なし
 に変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研
 究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

当面の予想

今回(2012年9月を起点とする)のサイクルにおいて、山を形成する期間のほうが、谷を形成する期間より長い、いわゆる「ライト・トランスレーション(強気型サイクル、図3)」がほぼ確定(本レポートリリース時点において、77.12円を下回る可能性は極めて低いため)している。

今回、強気サイクルが確定となれば、次のサイクルもまた強気サイクルが継続する事が予想される。その場合、次のサイクルでは直前のサイクルで付けた高値(今年5月につけた103.73円)を越え、かつ、サイクルの高値は中心地点より右側でつける事となるだろう。仮に46週サイクルが7月21日の週に終わると仮定すると、次の46週サイクルの終了地点は2014年6月2日の週、そして中心点は2013年12月23日週以降が導き出される。サイクルのピークが中心地点よりも左側となる「レフト・トランスレーション(弱気型サイクル、図4)」の出現や、始点よりも終点の方が安い位置で引ける、などのトレンドの転換を示すサインが出るま

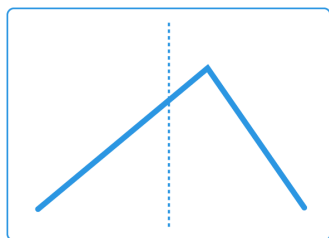


図3: ライト・トランスレーション

強気サイクル

・通常、高値は中心より右側

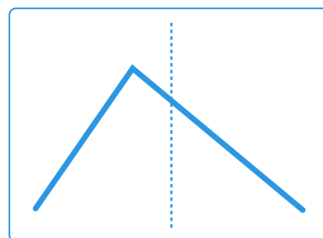


図4: レフト・トランスレーション

弱気サイクル

・通常、高値は中心より左側

で、上昇トレンドは継続となろう。

上値目処

13年5月高値103.73円を突破すると、相場は2007年から2011年にかけての下落局面に対する戻りを確かめる動きが続いていると考えられる。その場合の上値の目処として、

- ◆105.48円(2007年高値124.12円-2011年安値75.32円の値幅48.80円の61.8%戻し)
 - ◆107.85円(2007年高値124.12円-2011年安値75.32円の値幅48.80円の2/3戻し)
 - ◆110.66円(2008年8月高値)
 - ◆112.60円107.85円(2007年高値124.12円-2011年安値75.32円の値幅48.80円の76.4%戻し)
 - ◆115円の節目(2002年夏~03年夏にかけての、日銀の防衛ライン)
- などが挙げられる。

下値目処

一方、下値については足下の46週サイクルがどこで底打ちするかによって変わってくる。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

(1)13年6月安値(93.79円)がボトムとなる場合、足下では上昇トレンドが継続している可能性から、次のサイクルのボトムを付けにゆく際、上記安値が強く意識されるであろう。もし上昇トレンドが次のサイクルにおいても継続するのであれば、これを下回らないものと予想される。

(2)13年6月安値を割り込む場合、過去の月足7連騰の局面を見ると、半値や2/3戻しが下値を支えている。昨年後半からの上昇幅(2012年9月安値77.12円~2013年5月高値103.73円)に対する1/2下押しは90.43円、2/3は85.99円である。2/3レベルをも下抜けるようだと、サイクルのスタート地点(2012年9月安値77.12円)を視野に入れた一段安の可能性が浮上する。

上記以外の下値の目処としては、以下の水準が挙げられる。

- ◆84.17円(2012年3月高値)
- ◆80.62円(2012年6月高値)
- ◆76.02円(2012年2月安値)
- ◆75.32円(2011年10月安値)

まとめ

2013年前半のドル/円相場は、前年後半からの上昇の流れを引き継ぎ、1971年以降の相場における月足での最長記録(7連騰)を更新。戦後の為替史に残る大幅上昇となった。昨年9月安値を起点とする現在のサイクルは「ライト・トランスレーション」がほぼ確定的となっており、当面は

46週サイクルのボトムを探りつつ、次のサイクルにおける上値を模索する展開をメインシナリオとして考えたい。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com